同志社ナウ

第1回 同志社 中学生・高校生英語プレゼンテーション大会 ー立石杯ー

法人事務室

２０１４年９月14日(日)、良心館１０７教室において、第１回目となる同志社　中学生・高校生英語プレゼンテーション大会―立石杯―を開催しました。

同志社法人内中学校・高等学校では、立石信雄氏からの寄付金(立石ファンド)を頂き、英語能力の向上を図るとともに国際感覚豊かで国際社会に貢献できる生徒の育成を目的として、各種プログラムを実施しており、その国際主義教育の一環として、本大会が企画されました。

中学生は「身近な国や地方、都市の紹介」を、高校生は「City-Urban Planning」をテーマとしました。各学校２チームまでの出場枠とし、参加チームが多い場合は各学校における学内選考を経て、当日は、中学生の部７チーム21人、高校生の部８チーム24人の計15チーム45人が出場しました。参加者を含め１４０人を越える来場者があり、創意に溢れ、工夫を凝らした中高生によるプレゼンテーションに来場者は魅了されていました。

当日の表彰結果は、下記の通りです。

中学生の部

最優秀賞　同志社国際中学校３年
山田　裕美子
森　大成
上村　優果

The Best of Quality: Japan

優秀賞　同志社国際中学校２年
Brian Downie
三浦　朝陽
中根　智樹

Let's Find Out About Southern Thailand

高校生の部

最優秀賞　同志社国際高等学校２年
榎戸　春日
浜田　理恵
浅沼　笑理子

Eco-Friendly, People-Friendly

優秀賞　同志社高等学校２年
渡邉　真子
大村　明日香
河合　香奈

WANOVATION～The Key to Kyoto's Urbanization～

〈中学生の部〉

〈高校生の部〉

同志社ナウ

「同志社創立者新島襄終焉之地」碑前祭および永眠125周年記念講演会について

大学広報室

今年も新島襄の永眠の日である１月23日、神奈川県大磯町で「同志社創立者新島襄終焉之地」碑前祭が開催されました。永眠時刻の14時20分に黙祷を捧げ、讃美歌３１２番を斉唱の後、大谷實総長より式辞がありました。ご後援先からは大磯町長・中﨑久雄様、同志社校友会神奈川支部長・竹村慶三様のご挨拶、大磯町詩吟連盟の皆様による詩吟・和歌「寒梅詩」、「送歳詩」、「いしかねも」の朗詠、同じくご後援先の同志社校友会東京支部、同志社同窓会東京支部の支部長様を含む式典関係者により献花が行われました。好天の下、１７０人を上回る方々が集い、新島襄の遺徳を偲びました。

さらに、今年は永眠１２５周年にあたることから聖ステパノ学園の「海の見えるホール」をお借りして記念講演会を開催しました。「海の見えるホール」は、高台にあり、演台の背後がガラス張りで、相模湾、湘南に繋がる海が見下ろせる設計。岸辺に寄せる白波や空の広がりを眺めながらの講演となりました。

講演は、水谷誠理事長が「志の中で」の演題で、新島襄の教育思想について話され、新島襄について初めて聞く人にもわかり易く、始めに江戸安中藩邸での出生から大磯百足屋旅館で亡くなるまでを概観。途中、襄・八重夫妻の人柄の違いを同時代の不破ユウさん(同志社看病婦学校第２回卒業生で、新島襄を前橋で２週間、そして大磯でも看病、看取り)や山室軍平氏の言葉を引用しながらユーモアたっぷりに紹介される場面もありました。同志社教育の理念「良心」については、同志社大学設立の旨意の中の言葉「仰いで天に愧(は)じず、臥して地に愧(は)じず」を引いて、「神の前にごまかしをしないということ、キリスト教的には、「天」＝神様のいるところ、「地」＝人と人の関係において、いつでもどこでも、この両方に対し公明正大であることをあらわしています」と、水谷理事長ならではの分かり易さで解説され、２００席ほぼ満席の聴衆一同、わが意を得たと充実感を味わいました。

同志社ナウ

日本翻訳家協会 翻訳特別賞の受賞について

大学文学部　准教授　金津和美（かなつかずみ）

坂本完春大学名誉教授、杉野徹女子大学名誉教授、村田辰夫梅花女子大学名誉教授が、日本翻訳家協会翻訳特別賞を受賞されました。

先生方は、『シェイマス・ヒーニー全詩集（1966―91）』（1995年出版）を始めとして、『水準器』（1999年）、『電燈』（2006年）、『郊外線と環状線』（2010年）、『さ迷えるスウィーニー』（2012年）、『人間の鎖』（2014年）の計6冊において、北アイルランドの詩人シェイマス・ヒーニー（1939―2013）の全詩作品を翻訳し、出版されています。この度、先生方の長年に渡る優れたご功績を讃えて、日本翻訳家協会より翻訳特別賞が授与されました。

『シェイマス・ヒーニー全詩集』が出版された1995年には、ヒーニーはノーベル文学賞を受賞しています。彼の詩人としての名声が不動のものとなるとともに、日本の英文学研究においてヒーニーの作品は広く注目を集めるようになりました。しかし、ヒーニーの作品研究には、北アイルランドの複雑な歴史性とともに英詩の伝統への深い理解が必要とされ、信頼しうる手引書の出版が待たれてきました。美しく的確な訳文、他の翻訳詩集には類をみない豊かで充実した注釈・解説が添えられた先生方の翻訳詩集は、これからの発展が期待されるヒーニー研究の礎として、ますます重要性を増しています。

1996年6月　翻訳世界会議　於：ダブリン
左から　杉野先生、坂本先生、薬師川先生、シェイマス・ヒーニー氏、村田先生

表彰式は2014年10月31日（金）に東京の学士会館で行われました。心よりお喜び申し上げます。

翻訳特別賞表彰式　於：東京・学士会館　2014年10月31日
（前列左　坂本先生、後列左から三番目　杉野先生）

同志社ナウ

健康は、正しい食生活から

女子大学　学生部長　西村公雄（にしむらきみお）

近年、若者の食生活の乱れが指摘され、朝食を摂らない学生も散見されてきました（厚生労働省の平成24年の資料によると20代の女性の約1／4が朝食を欠食しています）。一般に、多種類の品目を摂取すると自然と一日の栄養のバランスが摂れることが知られています。朝食を欠食し昼と夜の2食とすると、一日に摂取できる品目数が限られ、バランス良く栄養を摂れないことが危惧されるのです。そこで、学生部の取り組みの一つである「学生の食生活をサポート」の一環として、正しい食生活を習慣付け、健康を維持してもらおうとの願いを込めて、100円朝食を始めました。

この朝食の特徴は、定食形式をとらず、ご飯と味噌汁を基本として、小鉢を3品、好みで選べるようにした点です。こうした形とすることで、一度に色々な品目が摂れるように工夫しました。また、毎日食べても飽きが来ないバラエティーに富んだメニューを自分で選択できるようにも考えたのです。

しかし、安価でなければ学生の利用は見込めません。そこで、女子大学当局はもちろんのこと学生会、栄光会（保護者の会）、同志社同窓会が財政的な援助を行い、100円で提供できるように配慮しました。

7月に、1カ月間試行したところ、大変評判も良く1日あたり200人ほどの学生が、今出川・京田辺両キャンパスを併せて利用したことや継続の要望が強かったこともあって、秋学期も行うこととなりました。

学生部としては、この企画を通じて、新島の娘達が正しい食習慣を身につけ、健康の礎を自主的に築けるようになることを願っています。さらに一歩、歩を進めて、学生部が提供している「かんたんレシピ」などの冊子を参考に自炊を習慣付け、自立した女性への扉を開くことを願っているのです。

参考資料：厚生労働省『平成24年国民健康・栄養調査結果の概要』、P・27

同志社ナウ

中学２年生 北海道修学旅行

香里中学校・高等学校　教諭　多田敏夫（ただとしお）

２０１４年９月22日（月）～25日（木）、中学２年生の修学旅行にて北海道を訪れました。

初日は工夫を凝らした斬新な展示方法で話題となっている旭山動物園の見学です。ホッキョクグマやアザラシなどの生き生きとした姿を、生徒達は胸を躍らせながら見て回りました。２日目はレトロな風情が漂う小樽の街を散策した後、白老ポロトコタンを訪れ、事前学習のテーマのひとつとして調べていたアイヌの文化と言語について学びました。３日目はニセコを訪れ、ラフティングやサイクリングなどの体験学習を通して北海道の大自然を満喫しました。最終日は函館での自主研修です。各班が事前に立てた計画通りに観光して回りましたが、途中のチェックポイントとして「新島襄海外渡航の地」の碑石へ立ち寄りました。

修学旅行での様々な体験を通して、生徒達は仲間との親睦を深め、多くの楽しい思い出ができたようです。特に昨年は、新島先生が１８６４年に函館の地より国禁を犯して海外へ脱出されてからちょうど１５０年目となりましたので、いっそう感慨深い訪問となりました。日本の将来を憂い、新しい知識を求めて外国へと踏み出された新島先生の強い意志と勇気を見習い、生徒達にも明るい未来を切り開く力を養ってほしいと願います。

新島襄海外渡航の地

旭山動物園

同志社ナウ

同女の新たな体育祭

女子中学校・高等学校　生徒部主任　古谷直子（ふるたになおこ）

新校舎建設工事のため、今年度から数年間は、本校のグラウンドで体育祭ができません。この事態に対して、体育祭を行わないという選択肢もありましたが、生徒の活動を確保するということを念頭に置き、校外施設での体育祭実施を模索してきました。幸い、島津アリーナ京都（京都府立体育館）の協力も得ることができ、今年度は島津アリーナ京都で体育祭を行うことに決まりました。

校外施設を利用して行う体育祭のノウハウがない状態で不安がありました。しかし、体育館職員や業者の方々のご協力の下、生徒・教職員全員が一致団結して体育祭を盛り上げ、無事に行うことができました。

また、グラウンドで行ってきた体育祭の良さも生かしながら、体育館ならではの良さも加わった体育祭となりました。

体育館を利用して良かった点は、室内ということで日差しによる体力の消耗がない点、空調が効くので熱中症の心配が不要な点、観客席が２階に設置されているので競技が見やすい点、オーロラビジョンを使用できたことによりさらに迫力ある映像で盛り上げられた点などがあげられます。また、グラウンドで行っていたときよりも怪我が少なかったことも良かった点としてあげられます。

来年度も島津アリーナ京都をお借りして、体育祭を行う予定になっています。今年度の経験を踏まえて、より一層魅力のある体育祭にしていきたいと思っています。